

多忙期の顔症状と全身リバウンドを経験した成人アトピーの経過 (29 歳)

症例 ID：001-20-HT2 | 記録日：2015 年 12 月 4 日

1. 診断・治療前経過

幼少期から乳製品摂取後に湿疹が出たり、夜間に掻いて眠れないことがありました。高校生の頃には臉のかゆみと荒れが出て、土佐清水病院のステロイドを約 8 年使用していました。

25 歳頃、仕事の多忙、睡眠不足、食生活の乱れが続く中で顔が真っ赤に腫れ、総合病院でステロイド内服と外用を受けました。その後も顔の赤みや腫れを繰り返し、2014 年の休職をきっかけにステロイド離脱を決意し、湯治を経て松本医院を受診されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	高校生以降、土佐清水病院のステロイドを約 8 年使用しました。25 歳頃にはステロイド内服と外用薬も使用しました。
製品名	不明。
強度	不明。
使用期間	高校生頃から約 8 年の外用歴があり、25 歳頃に内服薬を 2～3 週間ほど使用しました。
中止時期	休職をきっかけにステロイド離脱を決意し、その後松本医院を受診しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
幼少期～高校生頃	来院前	乳製品摂取後の湿疹や夜間のかゆみがあり、高校生頃から臉の症状に対してステロイドを使用しました。
25 歳頃	来院前悪化	多忙と睡眠不足、食生活の乱れが続き、顔が真っ赤に腫れました。ステロイド内服と外用で一時的に見た目は落ち着きました。
2014 年頃	来院前	再び顔症状が強くなり、休職をきっかけにステロイド離脱を決意しました。湯治では顔と首のリバウンドを経験しました。
2015 年 1 月 27 日	治療開始	松本医院を受診しました。初回検査では TARC 10230、IgE 4395、リンパ球 20.8%でした。
2015 年 3 月 10 日頃	リバウンド期	顔がどす黒く、皮膚が硬くなり、全身のかゆみと浮腫みが出ました。足の浮腫み、体液、手の腫れや亀裂、落屑がみられました。
2015 年 5 月 29 日頃	回復傾向	掻いても皮膚が壊れにくくなり、体液が出なくなったことで生活動作が楽になりました。
2015 年 9 月頃	経過後半	顔の赤みと分厚い皮膚が少なくなり、肌色の柔らかい状態に近づきました。化粧水使用後に顔の腫れが出る時期もありました。
2015 年 10 月	検査値変化	TARC は 912 まで低下し、人前に出たり友人に会ったりする生

		活を取り戻しつつありました。
--	--	----------------

4. ピーク時期

ピークは2015年3月以降の全身リバウンド期です。顔の変色、全身のかゆみ、浮腫み、体液、手の腫れや亀裂、強い落屑により、着替えや歩行、入浴後の生活動作にも支障がありました。

5. 困りごと

- ・顔の腫れや赤みで人前に出ることが大きな負担となりました。
- ・全身のかゆみ、浮腫み、体液、手指の亀裂により、着替えやトイレなどの日常動作が困難でした。
- ・漢方風呂後に上がることで体が苦痛で、家族の支援も必要でした。
- ・感染を起こした吹き出物に対して抗生物質を使用する時期がありました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

項目	内容
TARC	2015年1月21日：10230、2015年7月7日：10894、2015年10月14日：912。
IgE	2015年1月21日：4395、2015年7月7日：7825、2015年10月14日：4992。
リンパ球（%）	2015年1月21日：20.8、2015年7月7日：16.9、2015年10月14日：27.7。

7. 経過のまとめ

高校生頃からステロイド使用歴があり、25歳頃の多忙期に顔症状が強く出た後、休職と湯治を経て松本医院を受診しました。治療開始後は全身の強いリバウンドがあり、顔の変色、浮腫み、体液、手指の亀裂、落屑などが続きました。

2015年5月末頃には掻いても皮膚が壊れにくくなり、体液が出なくなったことで生活動作が楽になりました。2015年10月にはTARCが912となり、人前に出たり友人と会ったりする生活を取り戻せるようになりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。